

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376400228		
法人名	有限会社ネクストサブライ		
事業所名	グループホーム長篠の家		
所在地	愛知県新城市長篠字西野々42番地1		
自己評価作成日	令和1年8月28日	評価結果市町村受理日	令和元年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&JigyosyoCd=2376400228-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市長瀬区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	令和元年9月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各週で1号、2号館月2回の内科往診があり、入居者様の健康維持に配慮をしている。地元ボランティア団体による歌や踊りの披露、入居者と顔馴染みの方もみえ、野菜、果物の差し入れをして頂いている。また実習生の受入れ指導も積極的に行っており、来年度は新卒採用者も内定しており若返りをはかる事が出来た。地域への繋がりを意識した行事(防災訓練、新城節句祭り等)への参加、知的障害者施設との交流もしている。毎月季節に合った行事と誕生会を企画し行っている。その他に年2回の外食支援とドライブ等、外出の機会を設けている。家族会を開催し、家族と一緒に行事やおやつ、昼食を楽しみながら普段の様子を見て頂き、その後家族と地域責任者、館長、職員の見学や理念、取り組み、生活におけるリスクなど、質疑応答を含め話し合いの場を設けている。また、毎月「ながしの新聞」

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

朝の玄関掃除は「動くことが大好き」という利用者がキビキビとおこなっており、「がんばりますねえ」と声をかけると、「我慢じゃないけんねえ、こんなに集まる(ごみが)で」と笑顔で成果物を見せてくださいます。管理者はじめ職員もはつらつとして朗らかで、実習生がこれまで2名も入職者となっていることから風通しの良い雰囲気も事業所全体に蔓延していることが覗えます。平均介護度1.94ということも相まって地域のボランティアのメニューも回を重ねて見慣れてきてしまったため、オカリナや歌謡フランドランスなど意欲的に開拓を続けていて、何事も「前進あるのみ」の気風がとても気持ちの良い事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく生活が送れるように楽しみや張り合いを増やす工夫を心掛けている。月々の目標を設定し掲示している。日々の生活の中で理念を話し合い、入居者に対して実践している。理念の掲示をしている。	法人理念は朝礼で読み上げ、事業所理念と心得を事務所に掲示しています。事業所理念は「利用者、家族、職員、地域」の四者に目を向けたもので、毎月目標にも反映させており、正職員は理解して業務に取り組んでいます。	パートタイマー職には理念が浸透していない面もあるようですので、何らかの工夫があることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭り、地域防災訓練、JAまつり、新城節句まつりなどの行事に参加している。地域ボランティア団体、高校生の交流を図っている。	新城節句まつりには「全員で」が敢行され年中行事の一つとなっていて、地域からは防災訓練に声をかけてもらえ、祭りには獅子舞踊りが演舞披露くださっています。利用者も獅子舞を楽しみにして、寒い日には毛布を被って見学しているとの微笑ましいエピソードもあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に積極的に参加し、認知症などの介護が必要になった人の相談やサービス事業所などを紹介している。また人材育成の一環として実習生の受け入れや職場体験を行って、運営推進会議にて情報提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において全てを報告し、意見があれば更に職員で話し合いを実践している。	区長、民生委員、地域包括支援センター、利用者、家族、法人内の他事業所管理者と顔を揃え、隔月開催が滞りなくできています。また最後に「一言ずつメッセージを～」と管理者がリクエストして、なにがしかの意見をもらうことも継続しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録を提出した時に施設の実状を報告している。市の担当者からのアドバイスをいただき、改善できるところは改善している。また運営規定の変更や事業所更新も適時、行っている。	運営推進会議に毎回出席くださる地域包括支援センター職員からはイベントや地域の情報が多面的に届けられています。入居紹介も折々にあり、満床だったことで法人内の他の事業所に仲介した例もあり、相互に協力し合う態勢に在ります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内教育研修として採用時のA課程とB課程・毎月1回のAA課程、朝礼を実施し徹底を図っている。	昨年度の指針に基づき、法人が指針を整備しています。身体的拘束適正化検討委員会、研修会の定期開催もあり、利用者の自由な振舞いと、職員の朗らかな対応からは本件への心配はないことが受けとめられます。	既存職員の定期開催を待っているのは法改正の意図から外れてしまうため、新入社員専用の研修プログラムを早期に作成されることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内教育研修として採用時のA課程とB課程・毎月1回のAA課程、朝礼を実施し徹底を図っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内教育を実施し、各職員のレベルアップが図られている。また社外の勉強会・研修などにも積極的に参加し、自己啓発を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に契約に基づき、キーパーソンに説明及び質疑応答し、納得していただいた上で契約している。利用料の変更も説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や日常生活の中で入居者より意見や要望を聞いて満足いただけるよう対応している。家族の面会時、施設に対しての意見を聞くよう心掛けている。また「長篠の家」の通信で運営状況や生活の様子を伝えている。	毎月家族には請求書を取りに来てもらうようお願いしているほか、1ヶ月の様子を綴った「長篠の家」も発行して、双方向の情報交換を図っています。また通院介助や郵送代等において家族へ伝わりきれいいなかった点については、確認の場を昨年の家族会にて持っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員カンファを月1回～2回行い、1号、2号館の利用者の様子を全員把握出来る様対応している。また、職員の意見や提案を聞き、業務に反映している。	本年度から隔週で「職員カンファ(レンズ)」を実施しています。ユニット毎に職員配置を固定していることや、各ユニット1名ずつとなる時間帯もあるため、安全やケアサービスの質へ配慮しての取組みですが、職員の発言の輪を拡げることもつながっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の労働環境を考慮した勤務形態をとっている。勤務状況を把握して、それを評価して給与・賞与に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	能力に応じて本部・事業所内・外部研修(定期・不定期)に参加して人材の育成を図っている。資格取得もサポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市・社協・病院などが主催する事業所会議や連絡会に出席して他GHとも情報交換をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の居宅ケアマネジャーからの情報や面談で本人から聞いた要望をフェースシートに記載してサービスに展開している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の居宅ケアマネジャーからの情報や入居相談、契約時に家族から聞いた要望をフェースシートに記載してサービスに展開している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居説明や契約時に本人に関する家族からの情報をフェースシート、アセスメントに記載してサービスを展開している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員と一緒に買い物、掃除、洗濯干しとたたみ、耕作活動等を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、家族へ本人の生活状況を報告し、家族から意見をいただいて、サービスに活かしている。また家族と外出、外泊する場合も支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の面会を自由に行っている。地域内での外気浴・散歩・買い物・地域行事の参加を通して地域内の交流が図られている。	面会時間は18時までですが、「牧畜業の家族はなかなか仕事から目が離せない」等もあり、時間を過ぎての受入れもあり、また入居前の知人、友人の訪問もみられます。花の苗を植えたり、野菜を育てるといった趣味や、家事を続けることができている人も多数います。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で共同作業(洗濯干しとたたみ等)やレクリエーションで関わるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した家族からの相談や御礼の電話をいただいたり、町で会った時には声をかけてくれる方がいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での会話で本人の希望、思い等を聞いている。対話のできない利用者は、仕草や表情などでニーズを汲取っている。	「115歳まで生きる」という本人の言葉を職員一丸となって支えたり、「どっかいかんでね。逃げんよ。だから毎日(玄関掃除を)させてね」との声に応えて見守ったりと、発語が明瞭であることにも助けられ、一人ひとりの声に耳を傾けたケアサービスを推進しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅のケアマネージャーからの情報をいただいたり、入居前と入居時に本人・家族から情報収集している。また新たな事実がわかった時点で記録し、職員一同共有を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを大切に、日常生活では心身の状態を観ながら、残存機能に応じた生活を支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやアセスメントに本人・家族の意向を聞き取り、職員カンファレンスを実施して介護計画に展開している。	2表のサービス内容は大局を捉えたものでシンプルで見やすいという特長があり、介護記録に詳細を表記して実施につなげています。ただし、計画作成担当者をユニット間で交替させて間もないため、現状はやや薄い内容となっていることは否めません。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録及びカンファレンス内容に基づき介護計画を作成している。入退院した場合には介護計画を再検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域内の病院受診は職員が付き添っている。地域外の病院受診は基本的に家族対応であるが、都合がつかない場合は職員が行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや高校生の実習を含め、積極的に受け入れている。また地域防災訓練、消防署との避難訓練、地域の祭礼に参加したり、公園・神社・JAへの買い物や散歩などしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の往診が月2回あり、緊急時の受診も連携している。個人のかかりつけ医については職員又は家族が付き添っている。	協力医はユニット別の対応の為、結果として週1回の医師訪問が叶い、経過観察も共有できていて安心の為、月2回訪問診療をおこなう協力医に全員が変更しています。診療には24時間オンコールのホームナース(週1勤務)が立ち会って、情報を把握しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の月2回の往診時に看護師と連携して医師に状態を伝えている。体調変化時や緊急時も同様に看護師に相談して適切な指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には付き添った職員が傷病歴・薬・ADLを医療機関に伝えている。入院期間中には職員が面会をして状態を確認する。退院前には医療機関から情報をもらい準備をして不都合がないよう受入れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期の段階から本人・家族・医師と繰り返し、話し合いをしてその結果の方針に沿って支援している。	看取りをおこなう体制を整えることは可能ですが、協力医が早い段階で入院のジャッジを下すこともあって、実績はありません。ただ、現在100歳を超える利用者もいて、「老衰のような状態ならば入院なく此処でお見送りをしたい」と、現段階から取組みを視野に入れています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに基づき対応している。マニュアルは事務所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議での話し合いや地域の防災訓練に参加している。また消防署の指導により通報・避難・消化訓練を年2回実施している。自治会とも協力体制を整えている。	3月と11月と、開催月を定めることで確実に訓練を実施しています。昨今の台風被害を鑑みて、事業所では予報があった時点で浴槽に水を溜めたり、夕食のご飯を炊くなどの予備に力を注いでいます。また地域の防災訓練には利用者も参加できています。	消火器、避難誘導、通報と、職員毎に習熟度を確認していくことを期待します(特に夜勤を担当する職員)。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護及び個人情報の守秘義務を順守するよう就業規則やマニュアルで徹底されている。言葉かけも名前を呼び、入浴は一人ずつ行っている。	道路側の居室にもかかわらずカーテンを開けたまま灯りを点けて就寝する癖がある利用者には、見回りの時そっと消すとの話もあり、また「沢山食べてね」と親切に声を掛けてくださる利用者もいて(他者との関係がつかれる)、本人本位の暮らしがあることが伝わります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各職員が入居者の希望を聞き取り、可能な限り対応している。また選択の幅を作り、自己決定し易くしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の運営ルールに基づき、可能な限りその人らしい暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を尊重して、その都度、職員が対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の心身の状況に応じ、買い物・片付けなど一緒に行っている。年2回で嗜好調査を実施し、評価の低いところは改善に努めている。嗜好調査の結果を踏まえ年2回外食支援を行っている。	業者から食材と一緒に届くメニューに基づき、手作り調理しています。104歳の男性利用者が汁物にトロミをつけるのみで、刻みも必要なく完食する姿に、他の利用者も力をもらえるのか、ほぼ完食で年を感じさせない健啖ぶりです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの良い食事に配慮し、一人ひとりに合わせた食事を提供している。入居者の生活・活動に合わせ、水分補給をこまめに行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食事後にはうがい、歯みがき、義歯洗浄を促し、除菌している。食事前には必ず口腔体操を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の身体状況や排泄パターンに合わせて支援している。定期的な声かけ・誘導し、可能な限りトイレでの排泄を心掛けている。	熱中症対策、水分補給としてマイペットボトルを各自携えて、便秘には担当医とホームナースが相談して速やかな配薬も成されています。また退院後、立ち上がりができなくて2人介助としていた利用者もいましたが、訓練を繰り返して1人介助となった例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食事、水分摂取、適度な運動(歩行)で体を動かすようにしている。必要に応じて腹部マッサージ、ヨーグルト摂取、医師処方の便秘薬で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴が可能ですが、本人の意思を尊重して無理強いせず、ゆったりと入浴できるように心掛けている。(2~3日/W)	入浴日でない日には清拭と下着の着替えをおこない清潔を保っており、現在は節水制限があつて週2回としているものの、本来は2~3回実施しています。拒否の症状がある人もいますが、職員を替えることで緩和されることを掴み、比較的スムーズな入浴が叶っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活リズム、体調に合わせて休憩したり、安眠できるよう温度・湿度・明るさを調節している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示に従い、職員が支援したり、変化がみられた時には、その医療機関に相談・受診している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各人が何らかの役割を持ち、共同生活をしている。レクリエーションを行ったり、定期的な外出したり、外食支援では食べたい物を食して貰っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物・外食などの外出支援を行っている。毎日の散歩・外気浴を行い、雨天では室内を散歩・ストレッチ・体操など実施している。家族との外出・外泊も支援している。	初詣、新城節句まつり、桜の花見、紅葉狩りが年間行事に組み込まれているほか、外出情報をもたらされた際には蓮や薔薇等の花見に出かけています。半年に1回外食支援をおこない、また外出に併せて食事をして帰ってくることもあり、笑顔の写真に結ばれています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いは家族の理解の下、施設で預かっている。能力に応じ買い物時は小遣いを渡して支払うように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な限り電話や手紙のやり取りができるよう支援している。また「長篠の家・通信」を毎月発行し、施設での様子を伝えている。通信は担当者が一言コメントを記載している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・食堂には季節感のある飾りつけをし、朝のラジオ体操後のレクリエーションなどで季節のお話や歌を歌い、畑で季節の野菜を作っている。	朝から床をモップで掃除し、利用者も手すり拭きなどを手伝っていて、シーツや布団干しも定期的におこない、総じて清潔です。リビングのソファには一人ひとりのクッションや座布団が置かれ、皆で集まって口腔体操をする様子は姉妹の集いのような仲睦まじさに満ちています。	全体に清潔ですが、歯ブラシの管理(取り換えの頻度、消毒、置き方等)については見直すことを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローア・ソファ・食卓、玄関前の長椅子を設置している。移動ベンチもあり、居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に持参された物や家族との写真など飾っている。家電の持ち込みは可能であるが、危険物や高価な物は除いている。	それぞれ馴染みのモノを持ち込んでいますが、カーテン付の押入れがあることで、足元がスッキリとしています。ドアの前には大きく引き伸ばした写真があって、訪問の折にも退去の片付けに訪れた家族が「もらっていてもいいですか」と管理者に声を掛けていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各人の心身状態を考慮して、安心・安全・安楽を基本に自立した生活が送れるよう工夫している。(バリアフリー、ベッドの高さ、手すり、電動ベッド、トイレ、障害者トイレなど)		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376400228		
法人名	有限会社ネクストサブライ		
事業所名	グループホーム長篠の家		
所在地	愛知県新城市長篠字西野々42番地1		
自己評価作成日	令和1年8月28日	評価結果市町村受理日	令和元年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&JigyosyoCd=2376400228-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市長瀬区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	令和元年9月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各週で1号、2号館月2回の内科往診があり、入居者様の健康維持に配慮をしている。地元ボランティア団体による歌や踊りの披露、入居者と顔馴染みの方もみえ、野菜、果物の差し入れをして頂いている。また実習生の受け入れ指導も積極的に行っており、来年度は新卒採用者も内定しており返戻をはかる事が出来た。地域への繋がりを意識した行事(防災訓練、新城節句祭り等)への参加、知的障害者施設との交流もしている。毎月季節に合った行事と誕生会を企画し行っている。その他に年2回の夕食支援とドライブ等、外出の機会を設けている。家族会を開催し、家族と一緒に行事やおやつ、食事を楽しみながら普段の様子を見て頂き、その後家族と地域責任者、館長、職員の紹介や理念、取り組み、生活においてのリスクなど、質疑応答を含め話し合いの場を設けている。また、毎月「ながしの新聞」の発

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

朝の玄関掃除は「動くことが大好き」という利用者がキビキビとおこなっており、「がんばりますねえ」と声をかけると、「自慢じゃないけんねえ、こんなに集まる(ごみが)で」と笑顔で成果物を見せてくださいます。管理者はじめ職員もはつらつとして朗らかで、実習生がこれまで2名も入職者となっていることから風通しの良い雰囲気も事業所全体に蔓延していることが覗えます。平均介護度1.94ということも相まって地域のボランティアのメニューも回を重ねて見慣れてきてしまったため、オカリナや歌謡フランドランスなど意欲的に開拓を続けていて、何事も「前進あるのみ」の気風がとても気持ちの良い事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく生活が送れるように楽しみや張り合いを増やす工夫を心掛けている。月々の目標を設定し掲示している。日々の生活の中で理念を話し合い、入居者に対して実践している。理念の掲示をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭り、地域防災訓練、JAまつり、新城節句まつりなどの行事に参加している。地域ボランティア団体、高校生の交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に積極的に参加し、認知症などの介護が必要になった人の相談やサービス事業所などを紹介している。また人材育成の一環として実習生の受け入れや職場体験を行って、運営推進会議にて情報提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において全てを報告し、意見があれば更に職員で話し合いを実践している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録を提出した時に施設の実状を報告している。市の担当者からのアドバイスをいただき、改善できるところは改善している。また運営規定の変更や事業所更新も適時、行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内教育研修として採用時のA課程とB課程・毎月1回のAA課程、朝礼を実施し徹底を図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内教育研修として採用時のA課程とB課程・毎月1回のAA課程、朝礼を実施し徹底を図っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内教育を実施し、各職員のレベルアップが図られている。また社外の勉強会・研修などにも積極的に参加し、自己啓発を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に契約に基づき、キーパーソンに説明及び質疑応答し、納得していただいた上で契約している。利用料の変更も説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や日常生活の中で入居者より意見や要望を聞いて満足いただけるよう対応している。家族の面会時、施設に対しての意見を聞くよう心掛けている。また「長篠の家」の通信で運営状況や生活の様子を伝えている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員カンファを月1回～2回行い、1号、2号館の利用者の様子を全員把握出来る様対応している。また、職員の意見や提案を聞き、業務に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の労働環境を考慮した勤務形態をとっている。勤務状況を把握して、それを評価して給与・賞与に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	能力に応じて本部・事業所内・外部研修(定期・不定期)に参加して人材の育成を図っている。資格取得もサポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市・社協・病院などが主催する事業所会議や連絡会に出席して他GHとも情報交換をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の居宅ケアマネジャーからの情報や面談で本人から聞いた要望をフェースシートに記載してサービスに展開している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の居宅ケアマネジャーからの情報や入居相談、契約時に家族から聞いた要望をフェースシートに記載してサービスに展開している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居説明や契約時に本人に関する家族からの情報をフェースシート、アセスメントに記載してサービスを展開している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員が一緒に買い物、掃除、洗濯干しとたたみ、耕作活動等を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、家族へ本人の生活状況を報告し、家族から意見をいただいて、サービスに活かしている。また家族と外出、外泊する場合も支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の面会を自由に行っている。地域内での外気浴・散歩・買い物・地域行事の参加を通して地域内の交流が図られている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で共同作業(洗濯干しとたたみ等)やレクリエーションで関わるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した家族からの相談や御礼の電話をいただいたり、町で会った時には声をかけてくれる方がいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での会話で本人の希望、思い等を聞いている。対話のできない利用者は、仕草や表情などでニーズを汲取っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅のケアマネージャーからの情報をいただいたり、入居前と入居時に本人・家族から情報収集している。また新たな事実がわかった時点で記録し、職員一同共有を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを大切に、日常生活では心身の状態を観ながら、残存機能に応じた生活を支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやアセスメントに本人・家族の意向を聞き取り、職員カンファレンスを実施して介護計画に展開している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録及びカンファレンス内容に基づき介護計画を作成している。入退院した場合には介護計画を再検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域内の病院受診は職員が付き添っている。地域外の病院受診は基本的に家族対応であるが、都合がつかない場合は職員が行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや高校生の実習を含め、積極的に受け入れている。また地域防災訓練、消防署との避難訓練、地域の祭礼に参加したり、公園・神社・JAへの買い物や散歩などしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の往診が月2回あり、緊急時の受診も連携している。個人のかかりつけ医については職員又は家族が付き添っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の月2回の往診時に看護師と連携して医師に状態を伝えている。体調変化時や緊急時も同様に看護師に相談して適切な指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には付き添った職員が傷病歴・薬・ADLを医療機関に伝えている。入院期間中には職員が面会をして状態を確認する。退院前には医療機関から情報をもらい準備をして不都合がないよう受入れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期の段階から本人・家族・医師と繰り返し、話し合いをしてその結果の方針に沿って支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに基づき対応している。マニュアルは事務所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議での話し合いや地域の防災訓練に参加している。また消防署の指導により通報・避難・消化訓練を年2回実施している。自治会とも協力体制を整えている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護及び個人情報の守秘義務を順守するよう就業規則やマニュアルで徹底されている。言葉かけも名前を呼び、入浴は一人ずつ行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各職員が入居者の希望を聞き取り、可能な限り対応している。また選択の幅を作り、自己決定し易くしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の運営ルールに基づき、可能な限りその人らしい暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を尊重して、その都度、職員が対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の心身の状況に応じ、買い物・片付けなど一緒に行っている。年2回で嗜好調査を実施し、評価の低いところは改善に努めている。嗜好調査の結果を踏まえ年2回外食支援を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの良い食事に配慮し、一人ひとりに合わせた食事を提供している。入居者の生活・活動に合わせ、水分補給をこまめに行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食事後にはうがい、歯みがき、義歯洗浄を促し、除菌している。食事前には必ず口腔体操を行っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の身体状況や排泄パターンに合わせて支援している。定期的に声かけ・誘導し、可能な限りトイレでの排泄を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食事、水分摂取、適度な運動(歩行)で体を動かすようにしている。必要に応じて腹部マッサージ、ヨーグルト摂取、医師処方の便秘薬で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴が可能ですが、本人の意思を尊重して無理強いせず、ゆったりと入浴できるよう心掛けている。(2~3日/W)		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活リズム、体調に合わせて休憩したり、安眠できるよう温度・湿度・明るさを調節している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示に従い、職員が支援したり、変化がみられた時には、その医療機関に相談・受診している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各人が何らかの役割を持ち、共同生活をしている。レクリエーションを行ったり、定期的に出出したり、外食支援では食べたい物を食して貰っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・外食などの外出支援を行っている。毎日の散歩・外気浴を行い、雨天では室内を散歩・ストレッチ・体操など実施している。家族との外出・外泊も支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いは家族の理解の下、施設で預かっている。能力に応じ買い物時は小遣いを渡して支払うように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な限り電話や手紙のやり取りができるよう支援している。また「長篠の家・通信」を毎月発行し、施設での様子を伝えている。通信は担当者が一言コメントを記載している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・食堂には季節感のある飾りつけをし、朝のラジオ体操後のレクリエーションなどで季節のお話や歌を歌い、畑で季節の野菜を作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローア・ソファ・食卓、玄関前の長椅子を設置している。移動ベンチもあり、居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に持参された物や家族との写真など飾っている。家電の持ち込みは可能であるが、危険物や高価な物は除いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各人の心身状態を考慮して、安心・安全・安楽を基本に自立した生活が送れるよう工夫している。(バリアフリー、ベッドの高さ、手すり、電動ベッド、トイレ、障害者トイレなど)		